



噴火の爪痕を残す被災家屋

行ってみんな、来てみんな⑦

防災の重要性を後世に伝える家屋

土石流被災家屋保存公園

道の駅 みずなし本陣ふかえ

川田喜伝治

道の駅に隣接している当公園は、1992年8月8日から14日にかけての雲仙普賢岳噴火土石流により被害を受けた家屋を保存する施設です。現在は、風雨による倒壊や損傷を防ぐため、3棟の家屋はテントをかぶせて保

存しています。土石流被災家屋をそのままの姿で永久保存することで、後世の人々に土石流災害のすさまじさと防災の重要性を伝える目的で設立されました。このとき起こった土石流は、台風による大雨の際に発生した規模の大きな火砕流が、流下中に雨水と混ざって高温の土石流に変化し、湯気を立てながら家屋や田畑を埋没させつつ、有明海まで達し、多くの家屋や田畑が埋設してしまいました。被害

に遭った被災家屋11棟を当時の状況のまま保存（1棟は移築）しています。この公園周辺（敷地面積約6200㎡）は約3mほど土砂物で埋没しましたが、土砂物の流れてくるスピードが緩やかだったため、倒壊はせず土砂物に埋もれました。また、11棟の家屋に住んでいた住民の方々は避難勧告を受け避難し、幸いにも人的被害はありませんでした。

1991年から始まった雲仙普賢岳の198年ぶりの噴火は、日本の災害史上例のない長期災害となり、多くの被害をもたらしました。また、島原市、深江町、有明町全体では、1991年5月から1995年8月までの間に1692棟が土石流被害にあっています。



- 【開館時間】9～17時
- 【休館日】無休
- 【観覧料】無料
- 【アクセス】長崎道諫早ICより国道57、国道251經由、島原市内方面へ1時間10分
- 【駐車場】無料

【住所】南島原市深江町丁91-2（道の駅みずなし本陣ふかえ隣接）
【電話】0957（72）7222